

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 2 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 3 月 2 日)

調査期間：平成 1 7 年 2 月 1 7 日～ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 1 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年2月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、景況停滞感が続く

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（34.2）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して36.5となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、建設を除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も拡大した。引き続き業況は好調との声はあるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「災害復旧工事を受注しているが、いずれも少額」（土木工事）、「公共、民間工事とも減少傾向のため、建設業以外の分野に進出しようとしている事業者も一部に見られる」（建築工事）、「受注が少なく、人員整理が進んでいる」（建築工事）といった声のほか、「鋼材価格が再び上昇しており、採算の悪化が懸念される」（一般工事）と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「全般的に忙しく、昨年に続き今年もこの状況が続くと思われる」（工業用プラスチック）との声の一方、「受注に一服感があり、業況はまだら模様で先行きに慎重な見方が多い」（電気機器）、「業況は不安定化しており、先行きの見通しも明るさが失われてきている」（プリキ缶等）といった声や、「石灰の出荷量は増加しているが、重油等燃料が高騰し、収益を圧迫している」（窯業、土石）と、仕入コスト上昇を訴える声のほか、「造船技能工が不足し、鋼材不足に加え人手不足」（船舶）といった声も寄せられている。

【卸売業】では、「特に大きな変化はないが、繊維関係については依然として需要は停滞している」（衣服・日用品）、「先行きが依然として不透明なため、活気が見られない」（衣服・日用品）、「良い材料は見当たらず、業況は低調に推移しており、業種によっては企業間格差も出てきている」（農畜産水産物）、「売上減少に歯止めがかからない状態で、消費者ニーズに合った品揃えを考える必要がある」（農畜産水産物）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「冬物セールが好調なため、売上増加」（商店街）、「バレンタイン商戦が好調で、紳士服や特選衣料も好調」（百貨店）といった声の一方、「買い物客の見る目が厳しくなっており、欲しいものしか買わない傾向にある」（百貨店）、「春物の動きが悪く、商品バランスがうまく取れないため、売上は前年同月比8割程度とかなり悪い状況」（百貨店）といった声が寄せられている。

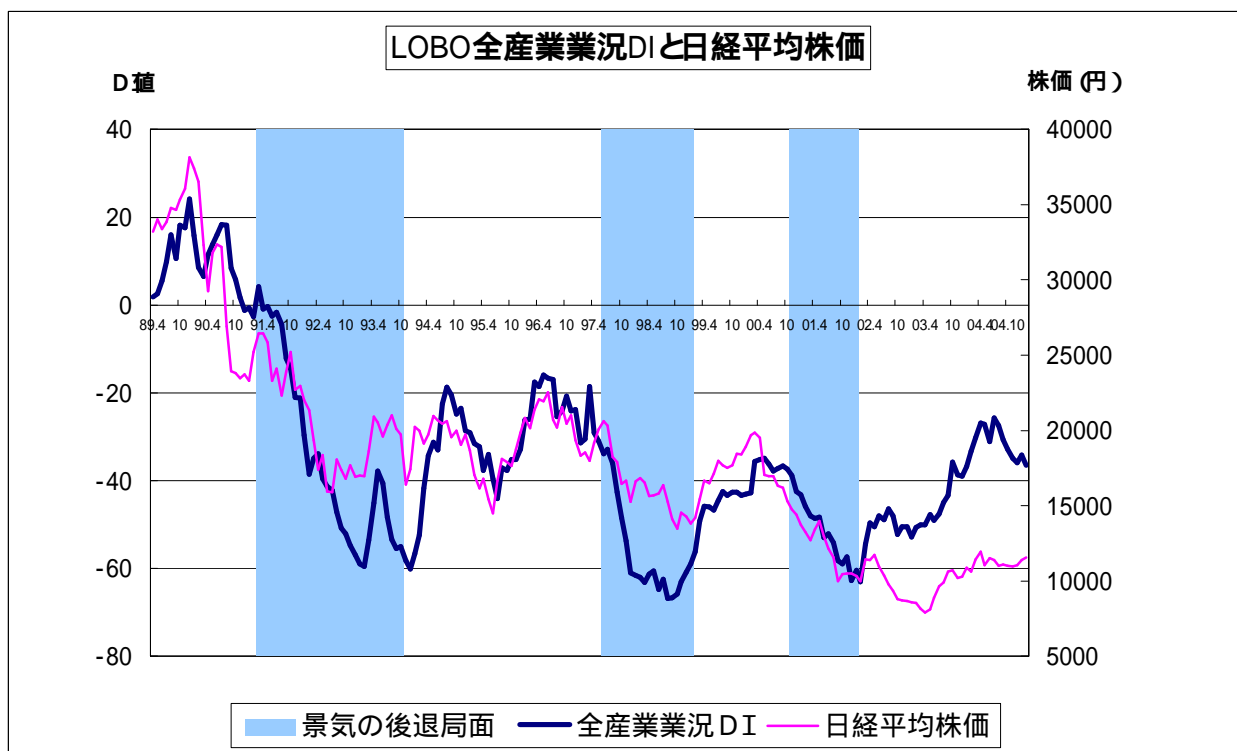
【サービス業】では、「業績低迷の中でも、売上が上昇している店も多少見られるようになってきた」（一般飲食店）、「春の観光シーズンに向け、業況は若干上向いている」（旅館）といった声はあるものの、「空室を埋めなくてはならないとの弱気・強迫観念から、低単価の宿泊受け入れによる売上減少、採算悪化の悪循環になっている」（旅館）、「輸送需要は横ばいだが、目新しい材料はなく、燃料の高騰と環境対策によるコストアップで経営環境は厳しい」（運輸）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 5.2 ポイント拡大して 35.5 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は小売を除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 2.2 ポイント拡大して 35.4 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月(3 月～5 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース)が 27.4 と、昨年同時期の先行き見通し(26.2)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、製造業を中心に業況は好調との声がある一方、引き続き公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く見られた。



【業況についての判断】

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 34.2 ）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して 36.5 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

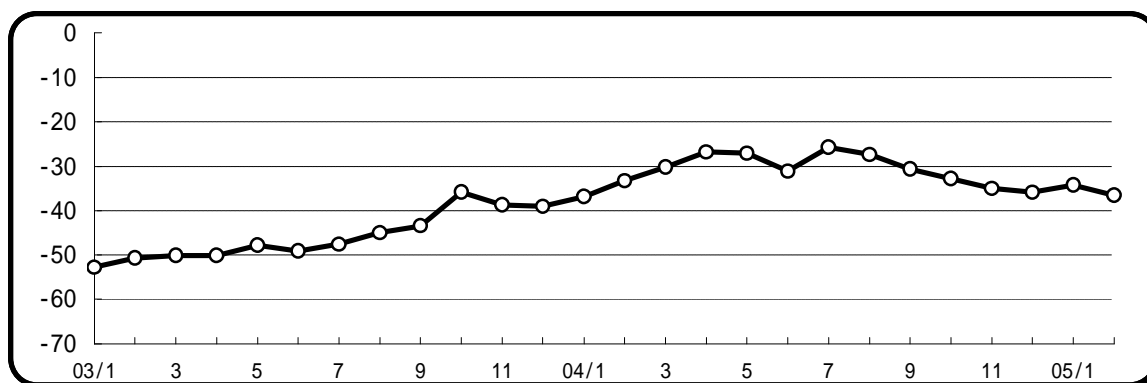
向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 27.4 と、昨年同時期の先行き見通し（ 26.2 ）に比べて悪化している。

業況D I（前年同月比）の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	30.6	32.8	35.0	35.9	34.2	36.5	27.4 (26.2)
建設	42.1	48.1	47.1	47.3	48.2	47.2	42.0 (46.9)
製造	18.4	16.6	15.6	20.2	21.8	23.4	20.9 (14.7)
卸売	34.5	31.3	26.5	35.6	34.7	43.8	23.3 (16.7)
小売	33.6	37.2	43.6	46.3	37.2	40.5	29.0 (28.0)
サービス	31.2	35.2	41.0	33.1	34.8	36.0	24.0 (26.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年2月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

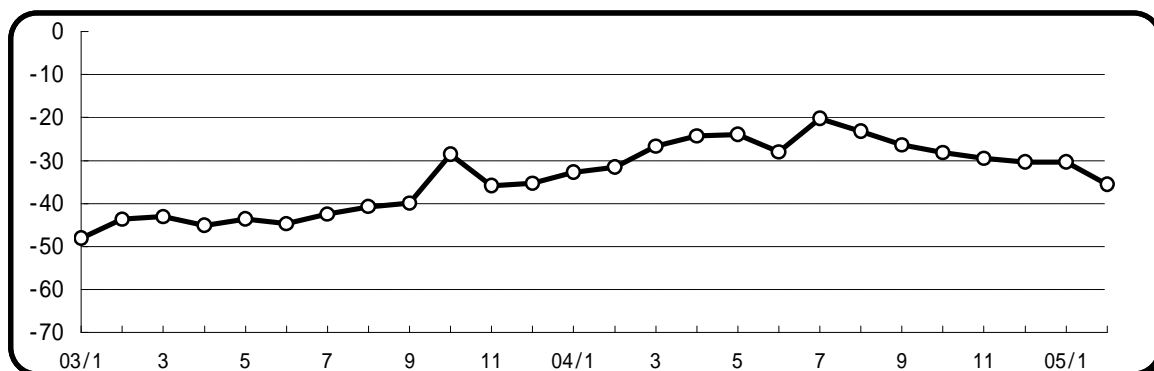
売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 5.2 ポイント拡大して 35.5 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

向こう3 カ月(3 月～5 月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上 D I (今月比ベース)が 21.5 と、昨年同時期の先行き見通し(21.0)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	26.4	28.2	29.5	30.3	30.3	35.5	21.5 (21.0)
建設	35.1	43.1	39.6	44.5	44.4	48.5	40.1 (43.3)
製造	10.8	4.0	5.4	11.1	12.6	20.3	13.8 (5.4)
卸売	34.5	28.3	26.5	21.3	31.7	45.0	17.6 (14.9)
小売	31.1	37.3	39.9	44.8	39.1	41.0	22.3 (24.4)
サービス	28.6	33.3	37.3	27.7	29.2	32.9	18.0 (21.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

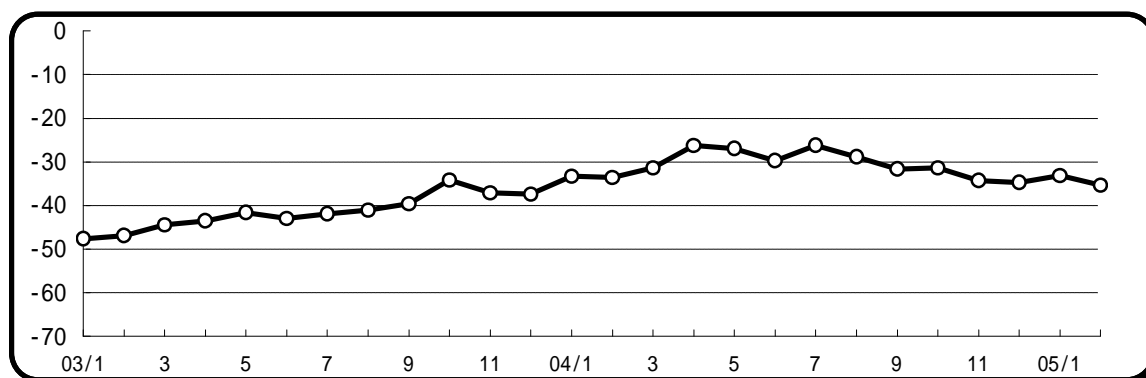
採算面では、D I 値のマイナス幅は小売を除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D Iは2.2ポイント拡大して35.4となり、2カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月ベース)が23.3と、昨年同時期の先行き見通し(23.8)に近付いている。

採算D I (前年同月比) の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	31.6	31.4	34.3	34.7	33.2	35.4	23.3 (23.8)
建設	48.7	45.9	47.1	47.4	49.1	52.0	41.3 (43.4)
製造	24.4	22.9	22.2	27.5	25.9	29.4	22.0 (15.9)
卸売	27.4	22.9	25.3	24.4	27.1	32.5	13.8 (17.9)
小売	29.1	31.9	36.5	42.3	34.7	32.4	19.5 (21.3)
サービス	32.8	33.5	39.6	29.0	31.4	35.5	20.9 (24.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	21.2	21.7	24.6	24.0	24.2	24.5	19.2 (22.3)
建設	36.1	37.8	43.7	38.8	41.5	40.0	36.6 (39.1)
製造	16.3	15.5	16.5	20.7	20.9	18.5	13.8 (17.4)
卸売	17.4	16.4	23.6	18.5	17.8	23.5	13.6 (18.4)
小売	19.1	19.8	21.6	22.0	19.0	21.7	16.2 (16.9)
サービス	19.6	20.7	23.1	21.3	23.8	23.5	19.2 (24.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、サービスで悪化超感が弱まったが、卸売、小売で強まったため、全産業合計でも2カ月連続でやや強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	16.5	21.2	22.8	19.9	19.1	16.9	13.9 (10.1)
建設	23.1	27.8	28.8	25.4	24.0	21.0	16.9 (9.9)
製造	35.7	33.7	37.5	33.9	38.4	32.6	26.0 (20.2)
卸売	14.6	18.7	22.9	22.6	17.4	12.6	17.6 (12.6)
小売	3.0	9.6	9.3	6.7	3.6	5.3	5.3 (0.6)
サービス	8.4	18.0	19.3	15.6	13.9	13.1	7.9 (10.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売を除く4業種で上昇超感が弱まったため、全産業合計でも3カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】サービスを除く4業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	5.3	6.1	5.4	6.9	6.6	6.7	8.1 (10.2)
建設	23.0	22.0	23.6	23.8	23.9	26.2	21.3 (25.8)
製造	3.2	5.0	3.2	6.0	5.0	7.3	10.7 (11.9)
卸売	9.7	10.8	7.8	9.4	6.6	8.1	8.8 (7.6)
小売	2.0	1.4	1.4	3.1	1.2	0.6	3.6 (4.2)
サービス	2.3	0.2	2.7	0.0	3.4	1.0	1.1 (5.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】小売、サービスを除く 3 業種で過剰超感が強まったため、全産業合計でも 2 カ月ぶりにやや強まる。

【先行き見通し D I】卸売を除く 4 業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年2月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。「国、自治体の緊縮財政により公共工事は減少傾向で、民間工事の動きも非常に悪く、総じて収益状況、資金繰りとも悪化し非常に厳しい業況」(米子・一般工事)「一昨年から好調だった受注に昨年後半から徐々に落ち込みが見られるようになっており、先行き要注意」(茅野・電子部品製造)「目先の受注残はあるが、今後も受注量を確保できるか心配」(長岡・鉄素形材製造)「個人消費財の売上減少傾向が続いており、各業種とも採算、資金繰りが悪化している」(帯広・各種卸売)「1月のバーゲンセールが好調だった反動もあり、今月は厳しい状況」(横浜・百貨店)「2月いっぱいまでは新年会シーズンだが、官公庁や企業の利用が少なく、業況は低調に推移している」(静岡・バー、飲食店)といった声が寄せられている。また、「受注はあるものの、材料が不足」(加茂・金属加工機械製造)「バブル時以上に鋼材単価が上がり、一時期の倍以上になっており、資金繰りも厳しい」(所沢・金属加工機械製造)「卵の仕入値が高騰し、原油高の影響で食品加工用トレーの値上がりも始まっている」(豊岡・百貨店)「新年会の減少に加え、ビールも値上げされ業況が悪化」(焼津・食堂、レストラン)と、仕入コストの上昇を訴える声のほか、一部の地域からは「大雪で客足が遠のいた」(弘前・商店街)との声も寄せられている。

回復への動き

各業種から、業況は引き続き好調との声も寄せられている。建設、製造からは「災害復旧関連で昨年より受注が増えており、今後1年くらいは続きそう」(西条・土木工事)「自動車関連は特に業績が上昇傾向で、残業が増加しており、他の業種も順調に伸びている」(豊橋・自動車、同附属品)「造船業界の活況が著しく、部品関連の業種も受注が増加」(諫早・金属加工機械製造)「受注は今月は若干減少するものの、来月以降は増加する見込み。春以降の新製品の発売に向け市場が上向き傾向に転じており、アジア向けの汎用品も受注が増加している」(新井・電子部品製造)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「季節商品の売上が伸びている」(下関・各種商品卸売)「バレンタイン商戦が非常に好調で、前年比の売上は20%増」(柏・百貨店)「卒業シーズンを控え、業況にやや好転の兆しが見え始めている」(金沢・旅館)「求人数が増加しているため、人が集まりにくい」(豊田・遊技場)といった声が寄せられているほか、「市町村合併に伴うシステムの受注が増加しており、現在の人員では対応困難な状況」(札幌・ソフトウェア)「花粉症関連商品の売上に期待」(立川・商店街)といった声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
16年12月	悪化への懸念	回復への動き	暖冬の影響
17年 1月	悪化への懸念	回復への動き	
2月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月連続で拡大した。「災害復旧工事を受注しているが、いずれも少額」(土木工事)、「相変わらず手持ち工事が不足し苦慮している」(一般工事)、「公共、民間工事とも減少傾向のため、建設業以外の分野に進出しようとしている事業者も一部に見られる」(建築工事)、「受注が少なく、人員整理が進んでいる」(建築工事)、「年度末になっても官公庁、民間とも受注が激減し、危機的状況」(一般工事)といった声のほか、「鋼材価格が再び上昇しており、採算の悪化が懸念される」(一般工事)と、仕入コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「全般的に忙しく、昨年に続き今年もこの状況が続くと思われる」(工業用プラスチック)との声の一方、「受注に一服感があり、業況はまだら模様で先行きに慎重な見方が多い」(電気機器)、「業況は不安定化しており、先行きの見通しも明るさが失われてきている」(ブリキ缶等)といった声や、「石灰の出荷量は増加しているが、重油等燃料が高騰し、収益を圧迫している」(窯業、土石)と、仕入コスト上昇を訴える声のほか、「造船技能工が不足し、鋼材不足に加え人手不足」(船舶)といった声も寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「特に大きな変化はないが、繊維関係については依然として需要は停滞している」(衣服・日用品)、「先行きが依然として不透明なため、活気が見られない」(衣服・日用品)、「良い材料は見当たらず、業況は低調に推移しており、業種によっては企業間格差も出てきている」(農畜産水産物)、「売上減少に歯止めがかからない状態で、消費者ニーズに合った品揃えを考える必要がある」(農畜産水産物)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「冬物セールが好調なため、売上増加」(商店街)、「バレンタイン商戦が好調で、紳士服や特選衣料も好調」(百貨店)といった声の一方、「買い物客の見る目が厳しくなっており、欲しいものしか買わない傾向にある」(百貨店)、「今年度は売上は前年同月比95%前後でずっと推移しており、衣料雑貨の売上が伸びない」(百貨店)、「気温の低下により、春物衣料の消費意欲に水が差され、売上不振」(百貨店)、「春物の動きが悪く、商品バランスがうまく取れないため、売上は前年同月比8割程度とかなり悪い状況」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「業績低迷の中でも、売上が上昇している店も多少見られるようになってきた」(一般飲食店)、「春の観光シーズンに向け、業況は若干上向いている」(旅館)といった声はあるものの、「アジア料理、イタリア料理、ラーメン店等は好況だが、高級居酒屋、スナックなどは不振」(飲食店)と、二極分化が見られるとの声や、「空室を埋めなくてはならないとの弱気・強迫観念から、低単価の宿泊受け入れによる売上減少、採算悪化の悪循環になっている」(旅館)、「今年に入ってから荷動きが減少傾向にある」(運輸)、「輸送需要は横ばいだが、目新しい材料はなく、燃料の高騰と環境対策によるコストアップで経営環境は厳しい」(運輸)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東北、東海でマイナス幅が縮小したが、他の6ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに拡大した。

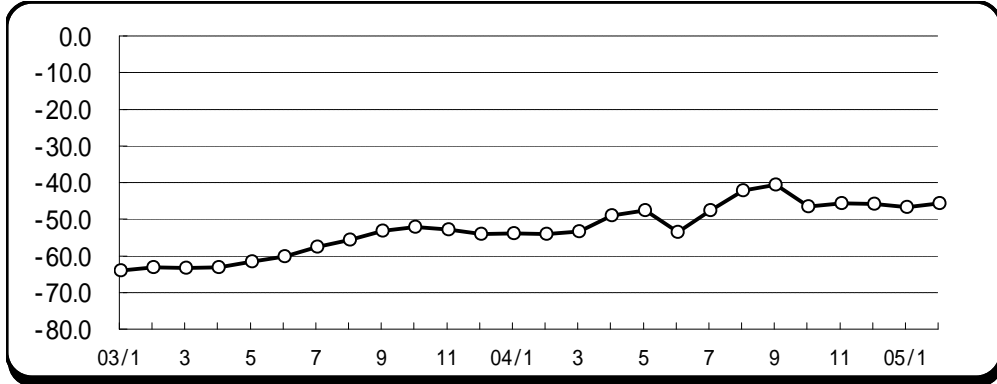
ブロック別の向こう3カ月(3月~5月)の業況の先行き見通しは、東海、四国で昨年同時期と比べて改善したが、他の7ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	16年 9月	10月	11月	12月	17年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全 国	30.6	32.8	35.0	35.9	34.2	36.5	27.4 (26.2)
北海道	28.4	23.7	33.3	39.7	37.1	30.8	25.0 (21.2)
東 北	35.9	37.9	42.3	50.3	44.0	40.8	34.7 (32.7)
北陸信越	35.0	33.1	37.3	34.3	26.1	35.9	21.8 (16.7)
関 東	23.0	27.0	31.6	30.0	30.7	32.4	24.0 (22.0)
東 海	23.4	20.0	23.7	27.3	29.0	25.1	23.0 (27.5)
近 畿	35.4	37.5	40.8	35.9	38.9	44.0	37.1 (33.8)
中 国	33.3	42.1	31.8	40.4	35.8	39.3	33.1 (27.8)
四 国	43.4	49.3	42.2	40.4	35.9	48.6	16.7 (31.2)
九 州	29.3	33.2	35.2	37.8	35.8	36.8	30.5 (25.9)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

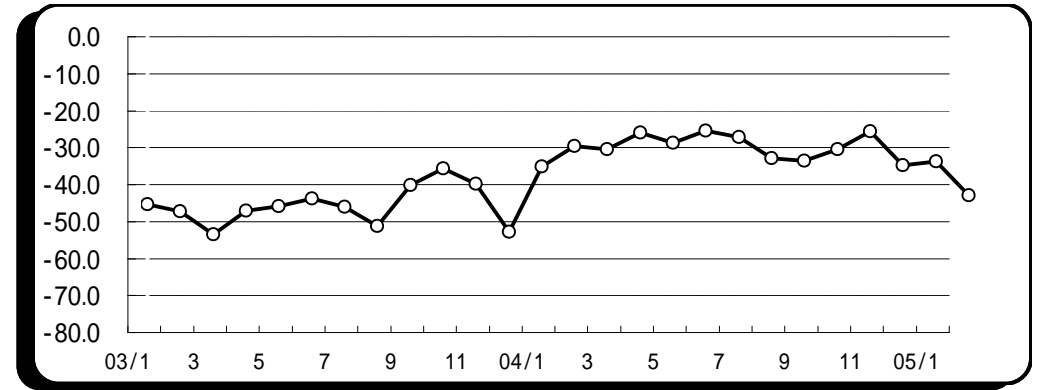
建設業



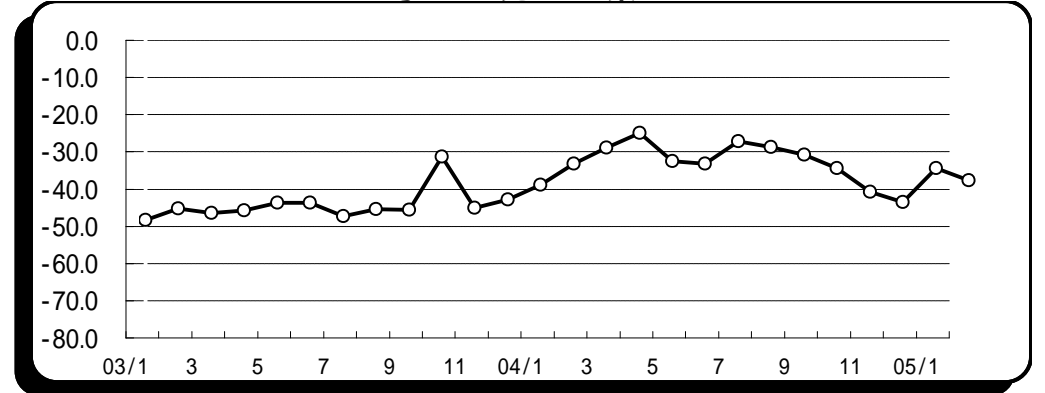
製造業



卸売業



小売業



サービス業

